

タイトル	世界を助けるプロジェクト ～ 給食を残さず食べよう ～
実践者／団体名	清田憲一郎 / 熊本市立五福小学校6年生
実施日・期間	2013年6月10日から7月5日
主な実施場所	熊本市立五福小学校全学級
参加者及び人数	本校全児童 260人
目標・ねらい	<p>世界の同年代の子供達の抱えている課題を知り、今、自分たちにできることを通して開発途上国の子どもたちを支援する。 ～みんなのがんばる力でアフリカの子どもたちを助ける～</p>
具体的な 取り組み内容及び 工夫・配慮した点等	<p>本校児童が、様々な形で国際支援をしていることを知った地域の「女性の会（婦人会）」の代表が、今年初め子供達の国際教育の役に立つならばと寄付の話を持ってこられた。私は、単純に寄付をいただくのではなく子供達に考えさせ何か国際協力の活動のきっかけ（教材化）にしたいと思った。そこで私が担任している6年生の子供達に「女性の会から支援の話が来ています。みんなが国際協力についてのアイデアを出し、行動し、みんなの気持ちが伝わるような活動なら支援をしたいということです。まず、みんなは女性の会の方々に支援をしてもらえるならば、何に使いたいですか？」と投げかけた。この6年生の子供達は、3年生の時に地域のお祭りでフェアトレードのチョコレートを販売し、その収益でアフリカの子供達への給食支援を行っていた。それで外国に寄付したいという意見が多かった。そこで、もう一度その時のことを思い出すために国連WFPのPRビデオの一部を見せた。そのビデオには、食べ物を食べられなくて栄養失調になっている子供達の様子が映っていた。また、3年生の時に支援したNPO法人IFEの活動「ぼくたちにお昼ご飯おごってくれませんか？」のHPをみんなで見た。それから、「みんなのやる気を見せなければ女性の会の支援は受けられないよ。みんなは、どういう風にする気を見せる？」と続けた。子供達の中に、当時、自分たちの課題であった給食の残食と外国の給食支援を結びつけた活動を考えた子供がいた。そこで、まず6年生でプロジェクトチームを立ち上げ具体的な活動内容を話し合い、プロジェクトを立案し6年生全体に呼びかけることにした。「世界を助けるプロジェクト ～給食を残さず食べよう～」である。</p> <p>それは、全校児童が課題に取り組み、その「やる気」を女性の会の人たちに認めてもらうことでアフリカの子供達への給食支援に協力していただくということだった。具体的には、まず期間を1か月（6月10日～7月5日までの4週間）とした。次に昨年1年間の中で給食の残食が一番少なかった月の残食量を給食の先生に教えていただき、その量を目標とした。（4週間を通して全校での給食の残食を25</p> <div data-bbox="1091 882 1430 1133" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1091 1218 1430 1469" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1091 1532 1430 1783" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="740 1832 1072 2083" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1099 1832 1430 2083" data-label="Image"> </div>

k g以内に抑える。)次にプロジェクトチームを中心に活動の内容を全校集会で呼びかけた。さらに6年生全員で分担をし、全教室で各学年に合わせた説明を行った。

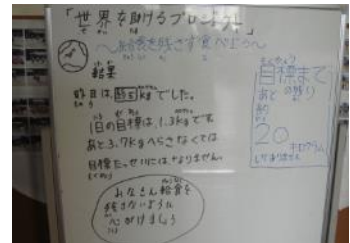


1年生の教室では、「給食の残食をペットボトル2本分に抑えよう。」と分かりやすいように説明を工夫した。そして、いよいよ活動開始。

まずプロジェクトとして工夫した点は、「今の自分達にできることを考え、友達と力を合わせて行動する。その向こうに支援がある。」ということである。寄付を受け取りそのまま渡すのは、単にお金を渡すこと。そこに自分達の活動が入ることにより自分達のがんばりを周りの大人たちが認め、大人たちを動かし、その結果、開発途上国の支援につながるということが大切ではないかと考えた。そして、こういう体験活動が、今後、子供達の開発途上国への支援の実践につながるグローバル教育と考えた。

そこで今回の活動で工夫した点は、

- 給食の先生に毎日給食の残食を計測していただきその結果をみんなの目に付く場所（職員室前）に表示した。
- 6年生は、自分たちの活動の心意気をきちんと残したいと残食が0 k gの日は空の容器を写真に残すことにした。(参考資料3)



また配慮した点は、

- 全校児童が無理をして残食を減らすのではなく給食本来の意味に戻ってきちんと食べる。また、外国の食物事情を考え、食べ物を大切にし、軽い気持ちでの食べ残しをなくし、給食の残食を減らすことにした。
- 目的が寄付（お金）ではなく自分たち子供のがんばりを認めてくれた女性の会の支援（気持ち）であることも付け加えた。

教材・資料

国連WFPのPRビデオ、NPO法人IFE「ぼくたちにお昼ご飯おごってくれませんか？」HP



成果

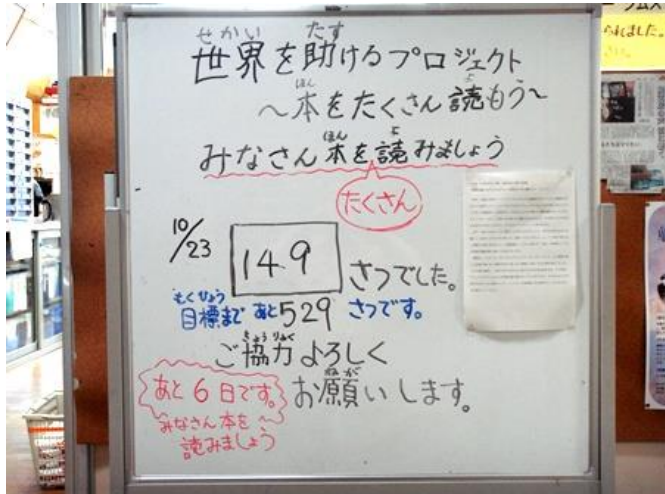
6年生の子供達は、目標に向けて全員で取り組んだ。苦手とする献立の時は、「給食を食べられない子供達のことを考え、自分たちの成長を考えて作ってくださった給食の先生、そして食べ物（命）に感謝して今までより一口ずつ多く食べよう。」と呼びかけながら食べた。

6年生は、2学級あるのだが、どちらの学級も期間中、残食なしだった。全校では33.9 k gで、結局目標を達成できなかった。しかし、昨年の同時期に比べると大変減量できていた。(目標とした昨年の数値は時期が違っており、給食の先生からは、「この時期としては大変少ない残食量であった。」ことを教えていただいた。)

そこで、「6年生の残食が0だったこと」と「全校の残食が目標は達成できなかったが、大幅に減



	<p>量できたこと」をもとに女性の会の人たちを説得した。女性の会の方は、目標を達成できなかったのは残念だが、「6年生の残食が0だったこと」や「給食の残食が大幅に減量できたこと」は素晴らしいことであり、五福小学校の全校児童の気持ちはよく伝わったことを話された。そして、ついに女性の会の人たちを説得でき支援を受けることができた。先日、バナンの子供達の給食支援の手続きが完了した。</p> <p>現在6年生は、毎日残食が0kgとはいかないがプロジェクト以前に比べると残食はたいへん少なくなった。自分たちの給食（食生活）を見つめ直す良い機会になったようだ。</p> <p>それから、本校児童は、11月に地域のお祭りに参加をする。今年は、何をするのか話し合いをしたときに「開発途上国への支援のために募金運動をしよう。」という子供がいた。それに対して、「人からお金を集めるのではなく自分たちの力でお金を手に入れて支援したほうがよい。だから、3年生の時にしたフェアトレードのチョコレートの販売をしよう。」という意見が出された。結局、このアイデアが受け入れられた。フェアトレードのチョコレートを売ることで自分が開発途上国の生産者への支援になるのだが、子供達は、その利益をも開発途上国の支援につなげる考えだ。「世界を助けるプロジェクト」を通して自分達の思いや行動する力で開発途上国を支援するという考えが身についてきたように思った。</p> <p>さらに、このプロジェクトは、周りの大人たちの意識を変える活動にもなった。今回協力していただいた女性の会の方より、「小学生の活動を通して、自分達も開発途上国について意識するようになりました。例えば、テレビで開発途上国の番組が放送されると見るようになったし、以前は、気にかけていなかったユニセフやUNHCR、JICAなどのCMを五福小の子供達の活動がこういう活動につながっているのかなと意識するようになりました。」と言われた。</p>
<p>発展</p>	<p>2学期に入り、女性の会より再度、支援の提案があった。そのことを子供達に伝えたところ、本の支援活動をしたいという子供が多かった。そこで新たなプロジェクト「世界を助けるプロジェクト ～本をたくさん読もう～」がスタートした。</p> <p>本校では、昨年「NPOソルト・パヤタス」のご協力でフィリピンのパヤタス地区に五福小学校図書室分室を設置した。最初は、本校で呼びかけて絵本を集めフィリピンに送ったが、表記の言語の関係でその後十分に活用されていないことが分かった。それで次にタガログ語（現地の言葉）の本を買っていただくように購入代金を送った。子供達は、その図書室分室の本を増やしてフィリピンの子供達にもっとたくさん本を読んでもらおうと考えた。</p> <p>6年生でプロジェクトチームを決め活動の内容を具体的に決めた。まず昨年の10月1日から31日までの本校図書室の本の貸し出し冊数を司書の先生に教えていただきその冊数（2837冊）を目標とした。そして、その目標冊数を超えることで全校児童のやる気として女性の会の支援をお願いすることにした。</p> <p>9月下旬にプロジェクトチームのメンバーを中心に全校集会で呼びかけをした。そして、いよいよ活動開始。司書の先生に毎日貸出数を教えていただき、その結果をみんなの目に付く場所（職員室前）に表示している。</p>



世界を助けるプロジェクト全体指導計画

1 はじめに

今年度はじめ、地域の「女性の会（婦人会）」の会長さんより本校の国際支援活動（ベナンの給食支援やフィリピンへの絵本を送る活動）に寄付の申し出を受ける。単に寄付を受け取るのではなく、子どもたちにとって意味のある活動に生かしたいと思いこのプロジェクトを立ち上げることにした。

まず、「ぼくたちにお昼おごってくれませんか」への寄付を考える。子どもたちは、好きな献立の時は、意欲的に食べるが、苦手なものが給食に出ると平気で残す。そこで、食についてあらためて考える機会としたい。

2 目的

今、自分たちにできることを通して開発途上国の子どもたちを支援する。
～みんなのがんばる力でアフリカの子どもたちを助けよう～

3 方法

- ① 食糧難で栄養不足の子どもたちの姿をビデオで見る。
- ② 子どもたちの感想をまとめる。
（例えば、「自分たちは、恵まれている。」「自分たちには、食べ物がたくさんある。」「食べ物を大切にしないといけない。」など。）
- ③ 子どもたちに今できることを考えさせる。
（例えば、「助けてあげたい。」「三年生の時、アフリカの子どもたちの給食を支援した。もう一度、やりたい。」など。）
- ④ 女性の会の人たちがみんなの活動に協力したいことを知らせる。ただし、みんなのやる気を見せないと女性の会の人たちは、行動しないことも知らせる。
- ⑤ どうすればアピールできるかを考える。（自分たちの生活に問題点はないのか。）・・・そこで給食の残量に着目させる。
- ⑥ アピール度を高めるために全校で取り組むことにする。昨年度の給食の残量をもとに学校全体の6月の給食の残量の目標値を設定する。（給食の先生に協力してもらう。）
- ⑦ 6年生が、世界（特に発展途上国）の食の現状を説明する。6月（1ヶ月）全校児童が給食の残量を大幅に減らし目標値をクリアできれば女性の会の人たちがみんなのがんばりを認め、「ベナン」の子どもたちの給食支援の協力をしてもらうことができる。つまり、「みんなのがんばる力でアフリカの子どもたちを助けることができる。」という今回のプロジェクトを知らせ、全校児童の協力を訴える。
- ⑧ プロジェクト実施期間中は、可能な限り状況を報告し、日々の意欲につなげ全校児童の給食完食への意欲を持続させる。目標が達成できるように6年生は、全校児童に向けて発信を続ける。
（例えば、「みんなの健康な体をつくる食べ物を残さないようにしましょう。」「給食を残さないために苦手な食べ物も、もう一口がんばって食べよう。」など）



ビデオを見ての学習



プロジェクトチームでの話し合い



呼びかけのためのポスターの作成



全校児童への呼びかけ



期間中にあつた地域とのふれあい給食六年



期間中にあつた地域とのふれあい給食一年



女性の会への報告



お礼 全校児童への報告と

6年生「かがやきたい夢」(総合的な学習の時間)
 「世界を助けるプロジェクト」～給食を残さず食べよう～について

私たち6年生は、1年間を通して総合的な学習の時間に「命」をテーマについて考えていきます。

この前、私たちは、ビデオを見ました。食べ物が足りなく、いつもおなかをすかしている人たちの様子が映っていました。

まず、私たちは、「今自分たちにできること」を考えてみました。その結果、「食べ物を残さず食べること」と「募金をする事」を6年生の大部分の人が考えていました。

その後、五福校区の「女性の会」のみなさんが活動に協力をしてくださることを知りました。ただし、女性の会の協力をお願いするためには、まず私たちのやる気を見せなければいけません。そのためプロジェクトを考えました。

まず、全校で給食を残さないように食べることをがんばりましょう。6年生が給食の先生にお願いして去年の給食の残りを調べてもらいました。そして、一番少なかった月の量を基準に目標を決めました。

期間は、6月10日(月)から7月5日(金)です。そして、期間を通して給食の残りを25kg以内におさえるように目標を設定しました。この目標を達成し、女性の会のみなさんに私たちのやる気を見せます。その結果、アフリカの子どもたちの給食支援の協力をしていただけます。みなさんが食べ物を大切にし、給食をできる限り残さないことで、アフリカに住む食べ物を十分に食べられない子どもたちを助けることができます。ぜひ協力してください。

世界を助けるプロジェクト

給食の残りの結果報告

6月 1 0日(月)	1 1 日(火)	1 2 日(水)	1 3 日(木)	1 4 日(金)
5.2kg	3.2kg	2.7kg	1.7kg	2.5kg

1 7 日(月)	1 8 日(火)	1 9 日(水)	2 0 日(木)	2 1 日(金)
1.5kg	1.2kg	0.6kg	0.9kg	

2 4 日(月)	2 5 日(火)	2 6 日(水)	2 7 日(木)	2 8 日(金)
0.3kg	1.9kg	0.4kg	2.7kg	0.7kg

7 月 1日(月)	2 日(火)	3 日(水)	4 日(木)	5 日(金)
2.5kg	2.0kg	2.4kg	2.4kg	1.1kg

合計 33.9kgでした。

参考資料 3

